

## ヌートリアの効果的な被害対策

ヌートリアは、南米原産のネズミの仲間で特定外来生物に指定されています。戦前から毛皮獣として各地で飼育されていましたが、逃亡などによって野生化しました。島根県で初めて捕獲されたのは1990年です。以前から生息の多かった岡山県から鳥取県を經由して、中海や宍道湖、斐伊川などを経て県東部へ拡がりました。また、広島県から江の川を経て県西部へも拡がりました。そして、わずか20年余りで隠岐島を除いて、県下全域に生息するようになりました。

高い繁殖力をもつヌートリアは、河川や池などの水辺に家族で生息しています。おもに植物を食べるため、水系沿いの田畑のイネ、ニンジン、ダイコンなどに食害が発生します。また、堤防や土手に巣穴を掘るため、これらが崩壊することもあります。

田畑に侵入されないように、ワイヤーメッシュ（柵目は5cm）柵やトタン柵などを60cmの高さで設置します。これらの上部に電気柵を追加するとさらに効果が高まります。また、ため池では水位を変動させると棲み難くていなくなります。

かごわなを水路から上がってくる場所や水面にいかだを浮かべて置いて、捕獲するのも効果的です。誘引餌には、ニンジンやサツマイモなどを使います。

なお、餌になるクズ野菜を田畑に放置しないことや、水辺近くの草を刈り払って、隠れ場所や侵入ルートを少なくすることも重要です。（島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 金森弘樹）



キャベツを誘引餌にしたかごわな